



一粒の麦 地に落ちて

汚れなきマリア修道会 Sr.高尾 チエ



創立者

マリアニストの創立者シャミナード師と誠実に溢れたメール アデルの帰天をともに祝う1月は、私たちにとってうれしい月です。

教会は今、信仰年としてまことの教会づくりに励んでいます。

信仰の人と言われ、その証し人として生涯をささげられたシャミナード師のうしろ姿を知っている私たちはしあわせです。地の果てまで福音が宣べ伝えられるため何をしましょうか。過去のことで大東亜戦争が勃発したのは私が小学校の四年生の時でした。戦争があつてはならないということはあとでわかったのですが、当時のことが走馬灯のように思い出されます。

小学生なりにグループで神社の掃除に行き、近所の家のお茶がらを集めて干し(馬の飼料として)軍の連隊に届けたり、町角に立って「千人針をお願いします。」と叫んだり、あれこれ思い出されます。

「頑張りましょう勝つまでは!」「ほしがりません勝つまでは」戦争を知らない子供たちにとってそれは大きなスローガンでした。長年、精一杯頑張った結果が敗戦となったのです。平和を求める人々にとってそれは大きな慰め、希望へとつながれたのですが、戦争の犠牲になられた多くの方々への哀悼は深く切ないものでした。大事な中高生時代をお国のためにと働き、終戦とともに目標を失った学生、若者たちにとってそれは大きな打撃であり同時に平和への憧れや希望もふくらみしました。

変動する社会で失われたものも多く、同時に普通では得られない体験をしながら中高生は成長していきました。不平を言うこともなく前向きだったし、多難のうちにも明るく生きられたことは大きな恵みでした。

終戦後60年を経て、すべて満ち足りたような現代社会の福音宣教をどのようにしたらよいのか考えさせられるこの頃です。

初代教会のようにひとつの魂、ひとつの心で助けあい、補いあって生きた初代のキリスト共同体は今も私たちのモデルです。

アデルが「ダビデの子のホザンナ!」と叫んで世を去ったのは1月10日、シャミナード師が和解と平和のうちに主のもとに召されたのは1月22日、両創立者の帰天日が1月にあることは私たちにとって大きな感謝とよろこびです。

マリアの宣教者、マリアの使徒として働かなければなりません。若くても年をとっても、その使命をよるこんで果たしていきましょう。

マリアの子 イエスと共に!

俳句

雪降って

紙一重ほど

寒ゆるむ

佳きことの

ありて春めく

声となり

シスター
村山



「マリアニスト家族の祈り」

マリア会地区長 青木 勲

私たちマリアニストは、その名前が示すように「マリア様」との関わりの中で靈的に成長する必要があります。マリア様は、創立者福者シャミナード師が指摘されたように私たちの靈的成長の模範だからです。

今日は「マリア様のように」「マリア様とともに」そして「マリア様に向けて」私たちの祈りの態度を一緒に学びたいと思います。

「マリア様のように」とは、信仰と愛徳と奉仕の精神をご自分で生きられたマリア様に肖ることです。その第一は、神のみ言葉への不退転の信仰です。私たちの個人の論理や納得を超えたところで示される神のみ旨に対する全幅の信頼とも言えるでしょう。「神の言われたことを信じたあなたは幸せです」というエリザベットの言葉は明快です。(ルカ福音書1章45節) 第二は、かかわるすべての人への生きた愛徳の実践です。カナの婚宴で新郎新婦とその家族に対するマリア様の気配りは、我が子であり同時に神の子であるイエスに最初の予定外の奇跡の招来までも引き起こさせたのです。(ヨハネ福音書2章1-11節) 第三は、共同体に対するマリア様の奉仕の姿です。ゴルゴタの十字架の下で聖ヨハネに代表される全人類にとっての靈的母性と、聖霊降臨の日に使徒たちと共に高間で祈る姿は、新しいキリストの靈的共同体への使徒の元后として、同伴と奉仕の精神の模範と言えます。(使徒言行録1章12-14節、2章1-4節)

「マリア様とともに」。マリア様の慈母的現存と同伴を通して私たちは神への信仰を更新することができます。私たちのために彼女は神に哀願し、感謝を捧げ、私たちの罪のゆるしを願い、私たちと一緒に神の栄光を称えます。彼女の存在は、私たちの希望と愛を燃えさせたせ、彼女に倣い主の福

音を自分の場で生きようとする私たちの決意を新たにしてくれます。「マリア様抜きで祈ることはできません。ですから念祷の中で彼女と一致し、彼女の御子を私たちに知らせてくださるように願いましょう。」(シャミナード師のマリアに関する文書II,736番)と創立者は語っています。なぜなら彼女は、祈りと毎日の生活の中で神のみ旨を生き続けていましたから。

最後に「マリア様に向けて」。教会の伝統の中で、最も古い形体の祈りは「あなたのご保護のもとに」という執り成しと信頼への祈りでした。マリアの祈りは創立者が極めて頻繁に扱ったテーマの一つで、彼は確信と絶対的な信頼をこめて会員たちに話していました。「もしも自然的欲求や感性が信仰の輝きを掻き消したり、快樂を求める気持ちが猛威を振るったり、靈的な事柄に対してやる気が衰えたり、生命のパンであるご聖体や、信心業さらに修道的修行に嫌気を感じ出した時や、艱難辛苦の風が吹きまわったり、厭わしい事がら苦しい杯をひっくり返したりする時、マリア様はいつもそこに慄然として留まり、各自の必要性に応じて様々な手段で援助しながらすべての人にすべてを通して働いてくださっています。マリア様は貧しい人を富ませ、臆病な人を守り、怒りを宥めすかし、恩知らずの心に触れて心を柔らげ、誰一人として見捨てることはありません。徳はその人を特別に高め、他方、罪人も彼女の中に保護と避難所を見出すのです。」(シャミナード師のマリア様を知る簡単な手法 第6章 生きることを与えた聖霊 108頁,496番)

このように私たちの祈りはマリア様と共に始まり彼女の同伴と靈的なインスピレーションによってますます豊かなものにされていくのです。

創立者の言葉



私たちは皆マリアに宿された。従って、マリアから生まれ、ひたすらイエス・キリストの命に生きるため、そして、イエス・キリストと共にマリアの子、もう一人のイエス・キリストとなるよう、マリアによってイエス・キリストの似姿に養育されねばなりません。

アリアンズ・マリアルとは（3）

アリアンズ・マリアル(AM) マリア・テレサ 田中正江

前号で、皆様に「在俗会」とはどのようなものかを、簡単に説明させていただきました。今回からは、「アリアンズ・マリアル」がそのような在俗会として、この50年間どのように歩んできたかを、数回にわたりご紹介させていただきます。

アリアンズ・マリアルの歴史

50年間。これは、2011年にその記念を祝った私達アリアンズ・マリアルが歩んで来た歳月です。

パリに近いアントニーにあるサン・ジャン修道院の礼拝堂で初誓願を宣立した一人の会員がアリアンズ・マリアルの最初の責任者になることになったのは、実際には、1961年1月22日でした。彼女はそうにして、在俗会と呼ばれた一つの会に、最初の要石を置いたのです。

ただ、その当時、会は「奉献されたマリアの兄弟会」という名を用いていました。

かなり困難な最初の一年間が過ぎ去った後、翌年から兄弟会はずいに活動を始めました。ベルギーのレーヴで8月の一ヶ月間、黙想を行い、その終わりに彼女は、最初の責任者に任命され、誓願を更新し、同時に別の一人の会員が初誓願を宣立しました。マリア会のノエル・ルミール神父が会の最初の霊的指導司祭となりました。

その後の数年間、兄弟会は成長し続けました。創成期から会は、国際的な地位にありました。最初の会員の中には、いち早く一人のスイス人会員が会に招き入れた数人のベルギー人がいました。

1966年には、ルミール神父がフランス管区の管区長に任命されたため、ジャン・パプティスト・アルムブルステル神父が兄弟会の霊的指導司祭の任務を受け継ぎました。けれどもルミール神父は霊的指導司祭の任務を降りる前に、兄弟会の会員に、置き土産として、「アリアンズ・マリアル」という名称を会に授けてくれました。

「兄弟会」から「アリアンズ・マリアル」に名称を変更した（同時代に発展しつつあった「マリアニスト兄弟会」と混同されないために）会は、初めに仮の会則で生活していました。けれども1965年以来、最初の霊的指導者であるルミール神父の貴重な力添えによって、正式な会則を作成するために、年の黙想の後に行われた2日間の会議の間に、仮の会則の章をグループ全体で習慣的に勉強するようになりました。ルミール神父の後

を受け継いで、アルムブルステル神父が会の霊的指導司祭に就任した後、会則の原文は最終的な修正がなされ、私たちが常時手にしているアリアンズ・マリアルの会則に至りました。完成した会則は1995年にフランス西部のロシェとサントの教区のモンセニョール・ジャック・ダビデ司教の承認を受けました。同じ時期、最初の責任者の先導の下、4人の会員からなる評議会の参加によって、アリアンズ・マリアルは組織作りを成し遂げました。

ここで、私たちの会は、男女混合の会であった時期があることを付け加えておきます。ある期間、グループの中に一人の青年が存在していました。けれども彼は修練期を終えることはできませんでした。

アリアンズ・マリアルは、初めから、「世に散らばる」という運命の下に誕生しました。会員達はフランス全土に散らばっており、私達がすでに目しているように、その状態は、他の国にまで広がっています。更に、初めから、「Liens（リヤン）」（日本語で「絆」を意味する）というタイトルの印刷物が、会員の下に定期的に送られていました。私達はその中でお互いの情報を提供し、また、私達が感謝しつくせないほどに、私達の手助けをしてきている、様々なマリアニストの修道者の方々が作成した各会員の養成状況を記したのもによって、共に歩んでいました。その当時手助けをしてきていた修道者の方々の殆どは、その役目から離れてしまいましたが、幸いにも、その当時の何人かは、今でも私達を手助けしてくれています。そのうちの一人がアンドレ・パウレット神父です。（続く）

★ 前号の記事の中でご紹介させていただきましたように、私達アリアンズ・マリアルの立場は信徒であり、一般の社会に属している者です。そのために、私達は会員の個人情報、決してインターネットに載せないという約束を互いにしています。したがって、記事の中では会員の個人名は伏せさせていただきました。

マリア会の司祭名は、マリア会の確認を得た上で、記載させていただきました。



東北への思い

MLC 共同体 - 糸杉の会

昨年3月11日に東日本沿岸を襲った地震、津波、原発事故を経てカトリック教会ではカリタスジャパンや各教区や個人の信徒たちが様々な支援やボランティアをされてきたことを、我々糸杉の会のメンバーも様々な報道や講演を通じて知り、例会での話題にもよくなっていました。それもまた昨秋の10月に行いました清水一男神父様指導のミニ黙想会でも被災者の方たちへの祈りを行いました。

その次の月には例会でSr.吉村(エリザベト)からご兄弟が関わっている(札幌教区がサポートしている宮古地区)支援の様子を聞きました。内容は宮古地区で行われている移動カフェや常設サロンでの現地ボランティアと定期的に行われている「わかちあいマーケット」への物品提供というものでした。札幌教区の有志の方々が手編みのものや手作りのものをバザー用にお送りしているとのことでした。糸杉の会は特に編み物が得意な方が2人おり、何か支援を通して心を繋げたいという思いからバザーへの物品をお送りしようということになりました。それから3週間ほどでなんと段ボール2個分の手編みの品々(マフラーや靴下、アクリルたわし)や提供品が集まりました。手作りのものは作った人のあたたかさも伝わるといって喜ばれるということでした。年明けに発送する予定でしたが、もしやクリスマスの頃、そうしたセールが行われるのでは、との意見もあり早めに宮古教会マルコ神父様宛に発送することにしました。

しかし年が明けてもむこうから着いたとの一報もなく段ボールはちゃんと届いたのかしらね・・・と話していました。実際に現地に度々入られている方からの話では現場はまだまだ人手も不足して混乱しているらしいとも聞きました。時間が流れて忘れたようなころSr.のところに宮古教会の新しい主任司祭の中尾神父様と信徒一同からお手紙がきました。

以下今年6月1日付けの手紙の一部です。

『主の平安 宮古教会でも何らかの支援をしようと始めた「わかちあいマーケット」も6回めになります。宮古教会の力だけでは出来なかったと思われるこれらの活動は皆様方の大きなご支援のおかげで可能になりました。本当にありがとうございました。支援の物資はさる4/22の第6回わかちあいマーケットで活用させていただきます。来場された300数名の方々の皆様に喜んでいただけましたことを遅ればせながらご報告申し上げます。』

というわけで私たちの手編みの品等は春暖かくなってバザーに並べられたようで時節がずれてしまったのはいたしかたないね、と苦笑したわけです。

その後、糸杉の会では今春、被災地を回られたSr.吉村(トリニティー)のお話を聞くという貴重な機会を得、より生の岩手、宮城両県の様子を知ることができました。今回の宮古教会がある岩手県宮古市は死者が420人、行方不明者が107人、浸水倒壊戸数が4675戸、宮古市田老地区での津波の高さは37.9mまであったそうです。

最後に9月23日付けの札幌教区サポートセンターの宮古ニュースレターによると各ベースでの活動を通してキリスト教が少しずつ知られるようになってきたとあります。夏休みにはカトリック校のボランティアが仮設住宅に入ってくれたとのこと、「さをり織り」という卓上織り機を使った織りが指導者により仮設住宅で講習会が行われたとのことなどが出ていました。常設サロンはなくなり、移動カフェ、わかちあいマーケットは今後も行われていくそうです。ネットで宮古教会の建物を写真で見れば小さな教会であることがわかります。隣に小百合幼稚園があるようです。糸杉の会ではこれからも祈りの中で被災者への思いを忘れず身の丈にあった支援があれば協力していきたいと思っています。

創立者アデルの手紙



～ 創立者アデルの思いを「手紙」を通して皆さまにお届けします ～

アジャンのマドモワゼル・アガト・ディシェ宛

1807年1月6日（アデル17歳）

† J.M.J.T

神様、今年あなたが私に下さるすべてのお恵みを有効に利用することができますように。

そうです。イエス様は私のそばにいてくださいます。私は何も恐れるものはありません。イエス様が私と共にいてくださいます。イエス様はご自分を、救い主として、やさしいお父さまとして、愛すべき花婿として、私の魂に与えてくださいました。誰がイエス様を私から奪うことができるでしょう。地上の他の誰が、イエス様と比較できるのでしょうか。そうです。私は永久に、余すところなく、ずっとイエス様のものです。

今日「主の公現」の祝日のために、私たちがお互いに提案した小さな規則をつくりました。

東方の博士たちにならって、まぐさおけから同じ道を通して帰らないようにしましょう。他の言い方をすれば、全く新しい生活、今までとは異なった生活、神様において様相の変

わった生活をしましょう。東方の博士たちの旅行の出来事は、このような反省を私たちにさせてくれます。

今日、私たちはある読書をしました。その中に、若い人は一種の殉教によって冠を勝ちとることができるとありました。これは、私たちの感覚と情念に対する戦いのことです。そうです、親愛なるアガト、この種の殉教は本当の殉教とほとんど同じくらいの功德があります。私たちの心の恐ろしい攻撃に抵抗するためには、私たちはどんなにか強い力を必要とすることでしょう。でも、神様が私たちと一緒に戦ってくださいます。もし私たちが、勇気を持って抵抗すれば、神ご自身が私たちの勝利の保証です。私たちの指揮官の旗の下に、勇敢に決然と戦いましょう。

さようなら、あなたを愛しています。そして、あなたにくちづけを送ります。

アデル・ドゥ・パーツ



マリアニスト家族の集い



マリア会日本渡来125年記念

2013年1月13日（日）

- 10:00 マリア会日本渡来125年記念講演会
講師 木寅義信師
場所 暁星学園聖堂下のホール
- 12:00 「マリアニスト家族の集い」記念ミサ
招待客：パリ外国宣教会管区長 オリビエ・シェガレ師
記念撮影：お聖堂にて
- 13:30 マリアニスト家族の懇親会（食堂にて昼食会）
14:45 終了予定

第4回「北東アジア マリアニスト家族評議会」報告

日本と韓国の『家族評議会』が2年に一度、交互に、それぞれの国で集う「北東アジア マリアニスト家族評議会」が、以下の要項で開催されました。

- 日 時： 2012年10月12日（金）～14日（日）
場 所： 汚れなきマリア修道会 マリアンハウス修道院
参加者： 日韓両国のマリアニスト家族評議会メンバー（23名）+ 通訳（2名）
 韓国（13名）： FMI（4名） SM（4名） MLC（5名）
 日本（10名）： FMI（4名） SM（2名） MLC（4名）
テーマ： FMI / SM グループ： カリスマの合同研究の可能性、どう生かすか
 MLC のグループ： 両国 MLC の歴史、運営方法、発展の方向づけ

4回目を迎えた今回の評議会は、これまで以上に実質的な話し合いがなされたように感じられました。修道者のグループは、両創立者やマリアニストのカリスマについて自分が感じていることを率直に分ち合い、また、カリスマの合同研究の可能性とその具体策を話し合いました。また、MLC のグループは、現状や運営方法を分ち合いながら、問題点を明らかにし、大きな刺激を受けました。そして、将来に向けて、特に若者への働きかけや、その養成について提案がなされました。

14日（日）は「世界マリアニスト祈りの日」にあたり、MLC の会員、FMI のシスターがた、SM のブラザーたちも参列して、アフリカ・トーゴの

『憐みの母、トーゴ湖の聖母』巡礼地に心を馳せ、アフリカの衣装と音楽に助けられながら、韓国、ベトナム、日本の国旗を手に、国際色豊かなミサを捧げました。青木地区長のイニシアティブにより、晃華学園庭園での印象的な開催の儀とみ言葉の祭儀、ロザリオを唱えながらの聖堂まで巡礼、韓国語の聖歌を交えながらの感謝の祭儀でした。

ミサ後は参加者全員がマリアンハウスに集い、日・韓・ベトナムの歌や FMI ノビスのマジックを交えた、国際色豊かなマリアニスト家族の懇親会となりました。この祈りの日を共にすることで、マリアニストとしての絆を確認し、深める良い機会となったことを感謝いたします。





世界マリアニスト家族「祈りの日」の集い

Sr. ホン（有期誓願者）



10月になると世界マリアニスト家族の祈りの日を楽しみにする人が多いのではないかと思います。その感覚がいつのまにか私の心に沁みついてしまったようです。参加者の一人として感じたことをお伝えいたします。

去る10月12日～14日、日韓マリアニスト家族評議会が日本のFMIで行われました。最終日は世界マリアニスト家族の祈りの日に当たって、皆心を合わせて共に「祈りの集い」を行いました。良いお天気と美しい芝生の自然の中で、憐みの母、トーゴ湖の聖母のもとに集って祈る巡礼者と一致して、ロザリオの祈りを唱えながらルルドの聖母像の前から昇華学園聖堂までの距離をゆっくり歩きました。日本語と韓国語と交互にロザリオの祈りを唱えましたから、本当に国際的な修道家族だと思いました。

青木神父様のアイデアで、アフリカのトーゴ風の素晴らしいミサに参加でき深く感動しました。典礼の役目は各枝にわけられて本当に温かい雰囲気でした。ぶどうの木のように一つに結ばれている、マリアニスト家族も皆一つになって協力

し、使命を果たしていることを実感いたしました。

12時よりマリアンハウスのホールで親睦会が開かれました。楽しい交わりの中で、ひと時を過ごすことが出来ました。韓国の歌や日本の歌など皆さまの生の声を聞かせて頂いて、とても素晴らしい集いでした。そして、ベトナムの若いノビスたちの巧みなおもしろい手品のおかげで皆若返り爆笑しました。

マリアニスト家族「祈りの集い」(世界マリアニスト祈りの日) この行事をいつまでも守り続けていきたいと希望しています。各枝を見ると高齢者が多いことに気がつきました。家庭の精神の良い習慣を続けるために、後継者を送ってくださるように神様に祈りました。日本も韓国も後継者の召命を祈らなければならないと思いました。

家族の祈りの日に参加した私はそれが心に深く響きました。刈り入れに必要な新しい後継者の恵みを心から願いたいと思います。

神様がマリアニスト家族の一人ひとりの上に豊かにお恵みをくださいますように！

第4回 青年のための練成会 「あなたにとって信仰とは？」

- 日時：2013年2月16日（土）午後3時～17日（日）午後4時
場所：汚れなきマリア修道会 町田修道院
〒194-0032 東京都町田市本町田3050-1 TEL042-722-6301
対象：18歳～35歳の未婚の男女（年齢については相談に応じます。）
費用：3,000円（当日徴収）
定員：15名
締切：2013年2月11日（月）
申込：住所、氏名、年齢、所属教会、霊名、メールアドレス、携帯番号を記入の上、ファックス・Eメールのいずれかで申し込んでください。
メールアドレス：marianist@marianist.jp
Fax：042-480-3881
担当：Sr小林（携帯：080-5873-6637）

主のもとに憩う祈りのひととき

ご聖体の前で、レクチオ・ディヴィナの形で、み言葉を味わっています。
どなたでもご参加いただけます。遅刻も、途中参加も可能です。

毎月：第3水曜日 p.m. 7:30～8:30

2013年	1/16	2/20	3/20	4/17
	5/15	6/19	7/17	8/休み
	9/18	10/16	11/20	12/18

会場：マリア会 シャミナード修道院 聖堂
〒102-0071千代田区富士見1-2-43
担当：清水一男 神父
問合せ：Tel 080-5873-6637 シスター小林



聖マリアの祝日 と マリアニストのカレンダー

- 1月 1日 神の母聖マリアの祭日
10日 メールアデルの帰天記念日
22日 福者シャミナード神父の
帰天記念日
- 2月 2日 主の奉献の祝日
11日 ルルドの聖母
- 3月19日 聖ヨセフの祭日
31日 主の復活の祭日
- 4月 8日 神のお告げの祭日
シャミナード師の誕生日



アデルの勉強会

汚れなきマリア修道会の創立者
アデル・トランケレオンの手紙を通読しながら、
分かち合いのひと時を持っています。

日時：毎月第4土曜日、10:00～12:00

場所：町田修道院

※ どなたでもご参加いただけます。

2013年 勉強会日程

1/13 (家族の集い)	2/23	3/23	4/27	
5/25	6/22	7/27	8/休み	9/28
10/13 (祈りの日)	11/23	12/未定		



発行：日本マリアニスト家族評議会
問い合わせメール：marianist@marianist.jp
ホームページ：<http://www.marianist.jp/>